AWSとGitHubを使ってみよう勉強会 ~ 第1回 KickOff ~

株式会社 豆蔵 ビジネスソリューション事業部



AWSとGitHubを使ってみよう勉強の概要

目的

クラウドやAWSとか良く話にでてくるけど、それってオンプレと何が違うか?どんな感じで使うか?そして何がそんなに嬉しいのかを体感する

目標

AWSやGihHubがこれでバッチリ!というところは目指さず、AWSやGitHubとかいってもそんなに難しくないのね!結構便利ね!機会があったら今度は自分でなにか試してみようかな!とクラウドやAWSへの心理的ハードルが下がるところ辺りを目指す



今回の勉強会の特徴

- 一方的に説明する講義スタイルではなく<u>自習を中心とした反転学習形式</u>
 - 次回までに各自が実施してくるお題やポイントをまずは解説
 - 持ち帰り各自でお題を実施。分からないことはネットで自分で調べる。それでもわからない場合は質問するか次回の勉強会で聞いてみる
 - 課題を出した次回は課題の解説とと皆さんからの質疑やディスカッションを行う
 - 勉強会は上記を繰り返し行う。なお、**お題を実施できなくても参加は可**。ただし解説は自分で手を動かしていることを前提にするので、その点は理解の上で参加のこと
- 勉強会の内容は極々簡単なRESTアプリを作成→コンテナ化→AWS EC2(オンプレ)へ→ECS Fargate(サーバーレス)へと同じアプリをステップアップしながら別の実行環境で動かしていく
 - GitHubは開発の中で使ってみてGitやクラウド上のCI/CDがどのようなものかを実際に体験してみる



勉強会実施内容

· 1回目: キックオフ

- キックオフと次回のお題の説明
- 次回までのお題: Helidonを使った簡単なRESTアプリ(Mavenでビルド&テストしてJavaコマンドで実行できるまで) & 開発にGit とGitHub Codespacesを使ってみる

・ 2回目: GitHub CodespacesとHelidonの利用

- 前回の課題の解説: GitHub CodespacesとHelidonについて
- 次回までのお題:コミットしたHelidonのサンプルアプリをGitHub Actionsでビルド~テスト~デプロイしてみる

3回目: GitHub Actionsを使ったCI環境の構築

- 前回のお題の解説: GitHub ActionsとGitHub Packagesについて
- 次回までのお題: GitHub Actionsでビルド~テストしたものをDockerビルドしてGitHubのコンテナレジストリにデプロイ

4回目: GitHub Actionsを使ったCD環境の構築

- 前回のお題の解説: コンテナイメージのビルドとGitHub Packages Container Registryについて
- 次回までのお題: AWS EC2にDockerをインストールした環境を構築し、GitHubにデプロイしたイメージを動作させる

5回目: AWS EC2環境の構築

- 前回のお題の解説: AWSのユーザと権限&AWSのネットワークの概要
- 次回までのお題: ECS Fargateを使ってGitHubにデプロイしたイメージを動作させる

・ <u>最終回: AWS ECS Fargate環境の構築</u>

• 前回のお題の解説:環境変数を使ったアプリの動作の変更とECS Fargateとは

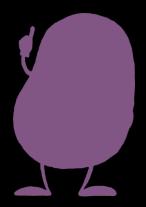


勉強会参加に必要なもの

- GitHubおよびAWSの個人アカウント(今回は個人アカウントを使っていただきます。持っていなければ作成してもらいます)
 - GitHubは個人利用のため、すべて無料で使えます
 - AWSのアカウント登録にはクレジットカードが必要です。使わない場合はサービスを停止することで月 1000円未満程度の利用を想定しています
 - なお、AWSはアカウントが乗っ取られた場合や誤って高額なサービスを利用した場合、高額な料金が請求される可能性がありますので、その点は注意ください。勉強会でそうならないための必要事項は説明します。それを守っていただければ心配することはないです。
- 開発環境にはブラウザで利用可能なGitHub Codespacesを利用します
 - 個人PCにインストールしていただくものはありません



次回までの課題の説明



次回までの課題

- ・テーマ
 - ・ 次回以降に使うサンプルアプリの作成
 - GitHubのCodespacesとgit repositoryに慣れる
- お題
 - Helidonを使った簡単なRESTアプリ(Mavenでビルド&テストしてJavaコマンドで実行できるまで)
 - 作ったアプリを自分のGitHubアカウントのリポジトリにコミットする
- ・ゴール
 - 予め準備されたテストケースがパスすること
 - GitHubにプロジェクトがコミットされていること



課題の実施手順

Step1. GitHubアカウントを作成する(持っていない場合)

Step2. リポジトリの作成&ひな形プロジェクトのimport

Step3. Codespacesを開始する

Step4. コードを修正してテストをパスさせる

Step5. 修正したコードをコミットする

画面キャプチャやコマンド操作等はGitHubのssi-mz-studygroupユーザで行った例となります。キャプチャやコマンド等の該当部分は自分のユーザIDに読み替えてください

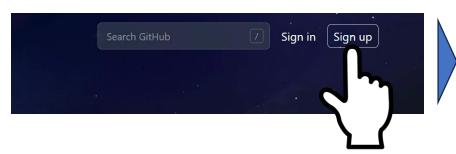
•ssi:simple server infra

·mz:mamezou



Step1. GitHubアカウントを作成する(持っていない場合) 1/4

• 個人のGitHubアカウントを作成する



https://github.comから開始





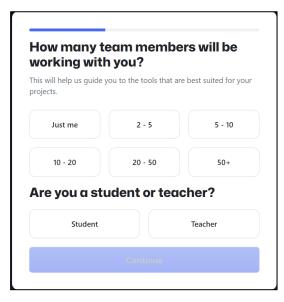


登録したアドレスにメールがくるのでそこに載っている認証コードを入力する

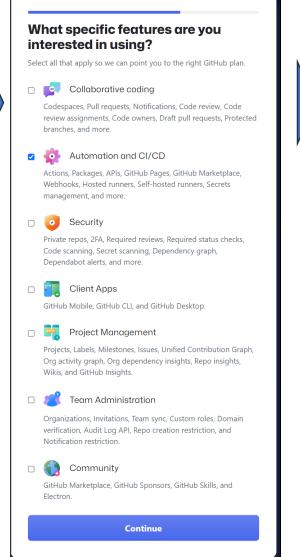


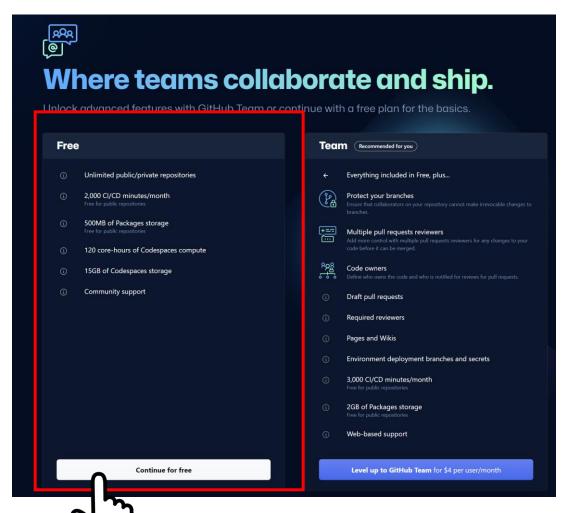
Step1. GitHubアカウントを作成する(持っていない場合)2/4

単なるアンケート



単なるアンケート





絶対にこっち(Free)を選択



Step1. GitHubアカウントを作成する(持っていない場合)3/4





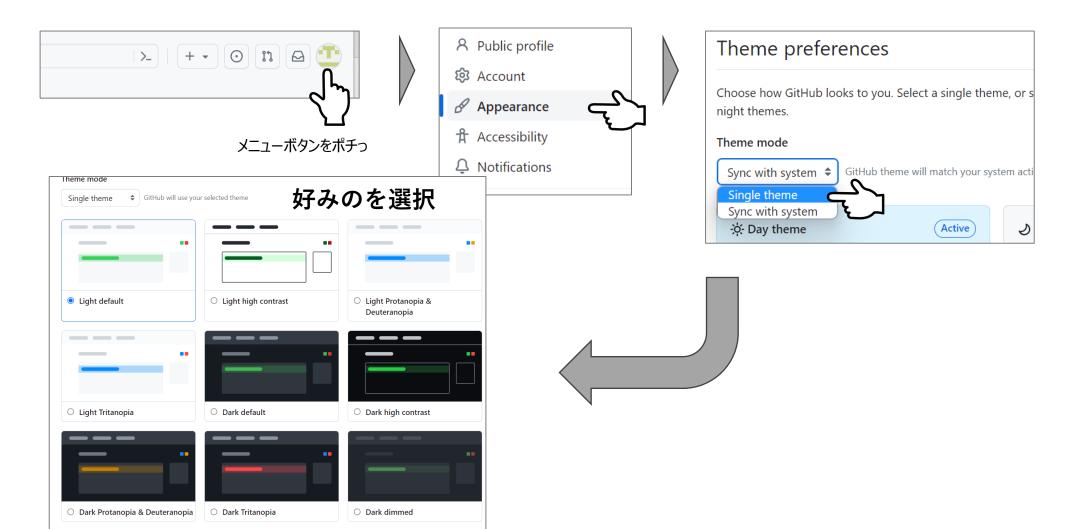
Step1. GitHubアカウントを作成する(持っていない場合)4/4

- 個人のFreeプランでパブリックリポジトリを使えば、Codespacesを除きなにをいくら使ってもタダ
- 見たとおりクレジットカード登録はないので気が付いたらたくさん課金されていた!ということはないので安心
 - 反対にAWSはクレジットカード登録があるので要注意
- よって、利用量はCodespacesを除き全く気にする必要はない
- 気をつけるべきはセキュリティの1点のみ!
 - ・ パブリックリポジトリを使うので、個人情報や機微情報は挙げないこと(例)電話番号やAWSのアクセスキーなど
 - 会社の資料やソースコードは絶対に挙げないこと



Step2. リポジトリの作成&ひな形プロジェクトのimport 1/3

• (本題とは関係ないが)ダークモードに変更する





Step2. リポジトリの作成&ひな形プロジェクトのimport 2/3

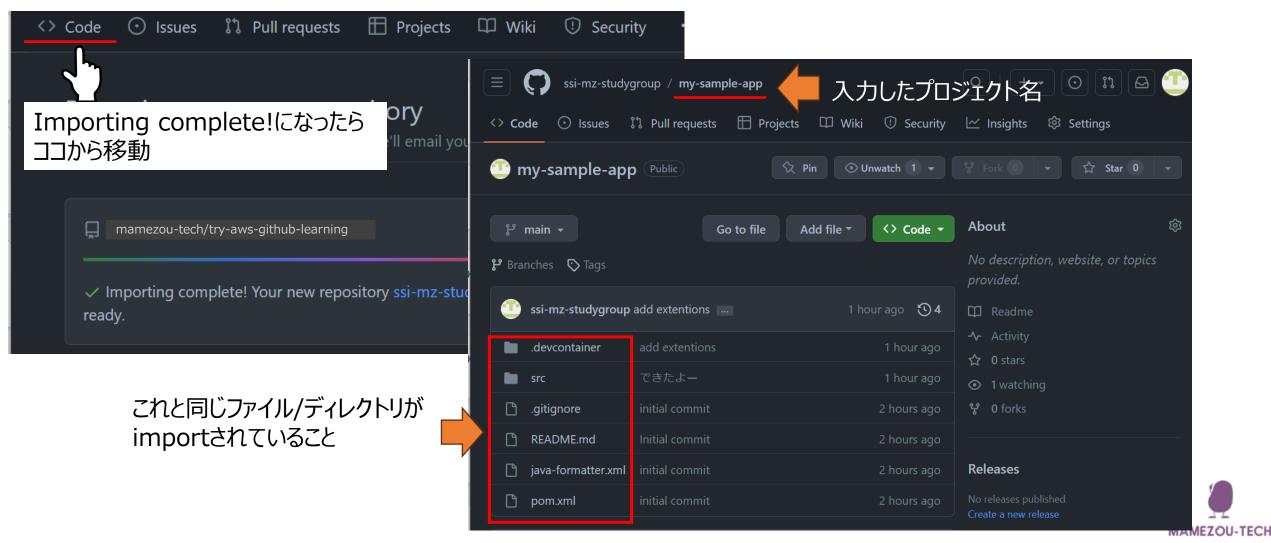
• welcomeページに移動(https://github.com/)



MAMEZOU-TECH

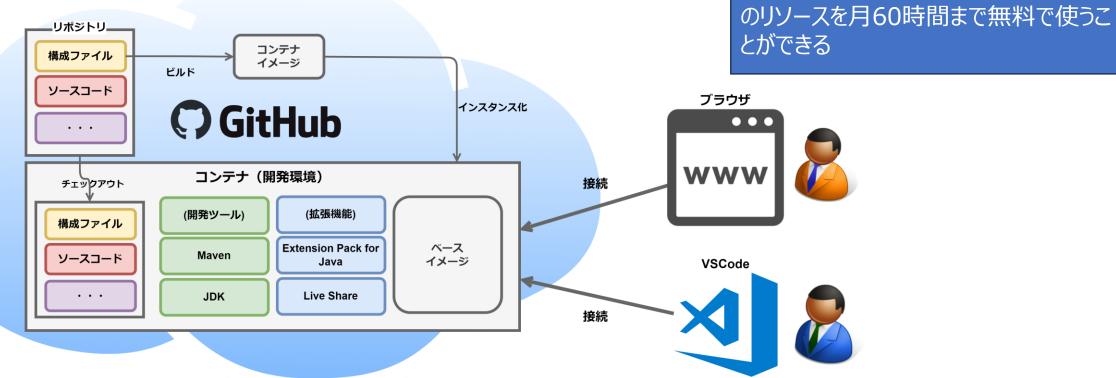
Step2. リポジトリの作成&ひな形プロジェクトのimport 3/3

• import完了



Step3. Codespacesを開始する 1/3

• GitHub Codespacesとは



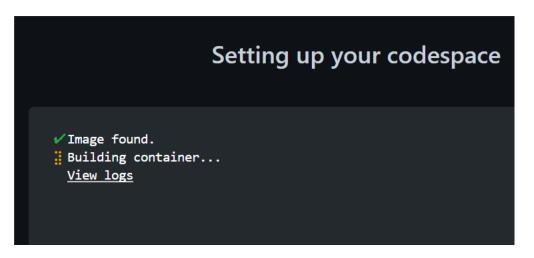
- 構成ファイルをもとにビルドされたコンテナイメージから生成されたコンテナインスタンスを個別の開発環境としてユーザに提供する機能
- ユーザはブラウザもしくはローカルのVSCodeから生成されたコンテナインスタンスに接続して作業を行う
- ユーザは目の前にあるブラウザやVSCodeを操作するが、リポジトリからチェックアウトしたファイルやJavaのビルドや実行などは すべてGitHub側のコンテナ内に存在し行われます

MAMEZOU-TECH

個人アカウントでも2コアCPU/4GBメモリ

Step3. Codespacesを開始する 2/3





数分待つと



Step3. Codespacesを開始する 3/3



Step4. コードを修正してテストをパスさせる 1/2

```
■ [プレビュー] README.md
                                                                          エクスプローラー
                                              src > main > java > sample > J HelloResource.java > ...
       MY-SAMPLE-APP [CODESPACES]
D
                                                     import jakarta.ws.rs.Path;
       > .devcontainer
                                                     import jakarta.ws.rs.Produces;

✓ src

                                                     import jakarta.ws.rs.core.MediaType;

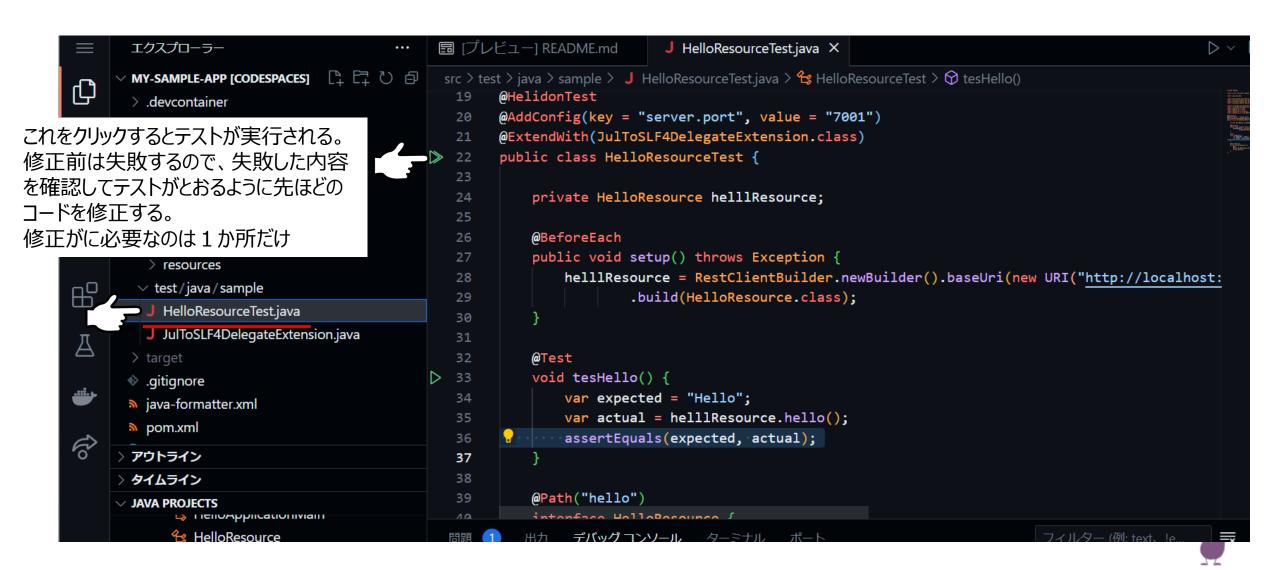
∨ main

√ java / sample

                                                     @ApplicationScoped
وړ
          J HelloApplication.java
                                                     @Path("hello")
                                                10
          J HelloApplicationMain.java
                                                     public class HelloResource {
                                                11
            HelloResource.java
                                                         @GET
                                                12
                                                         @Produces(MediaType.TEXT_PLAIN)
                                                13
         > resources
                                                         public String hello() {
                                               14
品
        > test
                                                             return null; // TODO テストが通るように実装する
                                                15
       > target
                                                16
       .gitignore
                                                17
       java-formatter.xml
                                                18
                                                        テストコードを見て修正
       nom.xml
      (i) README.md
```



Step4. コードを修正してテストをパスさせる 2/2

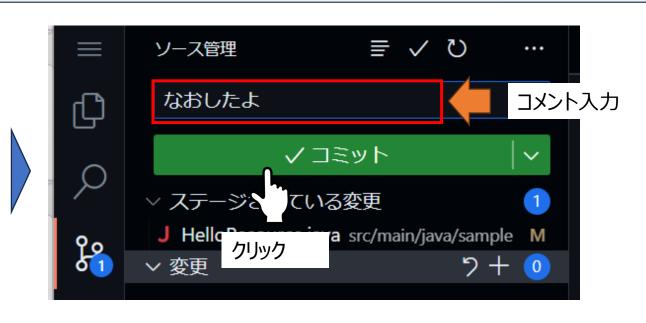


Step5. 修正したコードをコミットする 1/1



コミット対象に追加する





<学習テーマ>

- リポジトリに反映されているか確認してみよう!
- コミットと変更の同期の違いを調べてみよう! (ヒント:リモートとローカル)
- Git graphで変更を確認してみよう(インストール済み)

MAMEZOU-TECH

これでゴールですゆ

- 誤って削除したりしても同じ手順でリポジトリは再作成できるので思い切っていろいろやりましょう
- 人様のリポジトリを弄っても権限がないので、誤って削除はできません。なので思い切っていろいろ弄ってみましょう
- GitHub/ Git / Codespaces(VSCode) はメジャーなツールなのでググればいろいる出てきます。
- 分からないこと、疑問に思ったことはグーグル先生に聞いて調べてみましょう
- Codespacesを使い終わったら停止するようにしましょう。
 GitHub CodespacesによるJavaのチーム開発環境の作り方 | 豆蔵デベロッパーサイト
 ⇒開発環境(コンテナ)のライフサイクルを参照



次回の予定

- 今回の課題の説明
 - 補足説明と質疑応答
- ・ 次回までの課題の説明
 - テーマはGitHub Actionsを使ったCI/CD(ビルドからjarのPackageレジストリへのアップまで)

